

2021-1-1  
No.1060 500円

# 思想運動

〈思想運動〉情勢討論会の論議から 2~3面  
 エッセイ(中西新太郎・中原道子・田中宏) 3・4・5面  
 南北首脳に送る書簡(康宗憲) 6面  
 反帝国主義の闘士マラドーナ逝く 7面  
 『ヤマトウから沖縄を見つめる』を読む 9面  
 戸嶋靖昌紀行(立野正裕) 10面  
 憲法寄席秋席を観て(山口正紀) 11面



新基地建設のための土砂投入開始から2年になる12月14日、辺野古海上抗議行動が展開され、抗議船6隻、カヌー26艇、ボート1艇が参加して工事の中止を訴えた(関連記事9面・11面)

## 土砂投入阻止！カヌーチーム、辺野古の海を走る

この日K8護岸では、いつもの土砂陸揚げとは違い、接岸部にスバッド台船を設置する

昨年十二月、厚労省は新型コロナに關連した解雇・雇止めが七万七千九百人にのぼると発表した。倒産・廃業・規模縮小などでこの数はさらに膨れ上がる予想される。二十二日に経団連が発表した大企業の冬の一時金は、昨年を九・〇二%下回った。中小企業はさらに厳しく、支給しない企業が突出するだろう。非正規の女性労働者の自殺率も激増している。

いっぽう政府は、十月十五日、一九兆一七六一億円の第三次補正予算案を閣議決定した。新型コロナ対策に四兆三五八一億円、ポストコロナに向けた経済構造の転換・好循環の実現に一一兆三三六六億円、脱炭素化の研究開発に二兆四の基金を創設。国土強靱化推進に三兆一四四億円を計上、うち老朽化インフラの改修などの公共事業には一兆六五三億円を充てた。

菅は「国民の命と生活を守ると言いが、全国民への無料のPCR検査は渋り、旅料のPCR検査は渋り、旅行・宿泊、観光、航空・鉄道・バス業を支援するためG.O.T.トラベルは即時全面中止にせず、延長に一兆三二億円を計上した。本来の新型コロナ拡大防止対策が非課税処置の延長、脱炭素社宅ローン減税、贈与税増額など、二〇二二年と引き上げるし、福島原発事故により発生した汚染水の海洋放流を実施しようとしている。辺野古新基地建設にもなう警備費は一日三〇〇万円、十二月十七日までの総計は五〇八億円のぼろ。奴らは、露骨に「金持たない年寄りはお金持たない年寄りには用済みだ！ デジタル化に乗り遅れる中小零細企業は店をたため！ 政府のやり口に口を出すな」と宣言しているのだ。

こうした中、自民党の大物・小物政治家による現金ハラマキの選挙違反、カヌーやカヌーで松田ぬ浜を出発し、辺野古崎に向かう途中にトウソリという岩が海中にあった。海上行動のメンバーは「ユワーフ岩と呼んでいたが、夏にはアシサシの管巢地となっていた。カヌーで数えきれないくらいそほを通ったその岩も、今では周りを土砂で埋め立てられてしまった。かつてシユゴンや海亀のえさ場であり、魚介類の産卵場でもあった海草藻場やそこに棲んでいた生物は生き埋めにされてしまった。工事を止めきれない自分たちの力の足りないの結果であり、怒りや悲しさが込み上げる。

大浦湾の生物多様性の価値が強調される一方で、いつの間にか辺野古側の藻場について触れる人は少なくなった。軟弱地盤の問題が頻りに取り上げられる一方、現に進められている辺野古側の埋め立てについては、どれだけ目が行われているか。

わたしがいつも写真を撮っている高台も、二年前はマスコミ関係者がよく来ていたが、今では目にすることがほとんどない。つらい現実からはそらつて目をむけたが、土砂投入量は全体の約三分の一に当たる辺野古側の海は殺されたのだ。

軟弱地盤の問題があるとして、沖縄県知事が設計変更承認申請を認めなかつた。菅政権が新基地建設工事を止めることとはない。工事が難しくなり、長引くことをネコンは喜んでる。軟弱地盤で工事はいはずれ行き話、と考えているなら大きな間違いだ。

## 辺野古通信

### 土砂投入から二年 海は殺されつづけている

目取真俊(作家)

作業が行なわれていた。すでにK9護岸では設置済みで、これにより同時に二隻のランブウェイ台船が着岸できるようになった。土砂の陸揚げが増加することになる。

三日前の十一日には大浦湾にデッキパーシが設置された。深田サルベージのOCEAN SEAL IIという船で、全長一四メートル余、幅三メートル、深さ八・七メートル、耐荷重量 万四〇〇トという大型のパーシ船だ。

この間、海が荒れてカッター船が塩川沖から大浦湾に移動できず、陸揚げする土砂が切れることが度々あった。それを防ぐために洋上で土砂を保管しようというのである。

土砂投入から二年を迎えて、日本政府・沖縄防衛局は埋め立てを加速するために新たな手を打ってきた。しかし、裏を返せばそれは辺野古側の埋め立てが予定より大幅に遅れていることへの焦りでもある。

辺野古側の埋め立て工区では現在、K11K4護岸の高上げ工事が行なわれている。護岸上に海面から八メートルの高さまで壁を造っているのだ。その高さまで土砂で埋めるのに、あと何年かかるのだろうか。

とはいえ、護岸で囲われた時点で海の死が始まり、さらにこの二年でほとんど陸地化が進められた。海上行動やゲート前の座り込みに参加するため辺野古に行った際には、高台から辺野古側埋め立て工区の様子を定点観察し、写真に

## 年頭アピール

### 野蛮きわまる資本主義を打倒 する反撃の狼煙をあげよう！

菅政権は決して無為無策ではない。独占ブルジョワジーはコロナ禍を悪用し、コロナ後を見据えて、虎視眈々と金儲け万能、「企業が一番活動しやすい」(労働者人民を分断し隷属させる) 社会の実現に邁進している。

日本の勤労人民は愚弄され、侮蔑のなかで暮らしてを強要されつづけている。労働権は闘いによるものだ。労働者人民の未来はわれわれ労働者人民が切り拓くしかない。

〔広野直三〕